

# あゆみ



上田高女・染谷丘高校東京同窓会

1985



## 特別寄稿

# 50年おめでとう

23回卒 岩下止代

長い間大ぜいの皆様方に支えられて務めた同窓会の会長を6月退役いたしました。本当に有難く厚い深い感謝で日を送るこの頃でございます。東京の同窓会が50年を迎えられます由おめでとうでございます。役員様方のご苦心とご活躍の蓄積によるご繁栄の御事と心からお祝い申し上げます。

先日小林会長様から「同窓会のあゆみ」についての原稿のご依頼を受けました。辞めてからゆっくりと思っておりますうちに日が迫って来ました。さあ書こうとしても頭の中がカラッポで何も浮んで参りません。雨のつれづれのまゝ、私自身覚え書きの様に記した在任中のノート(3冊)を何となしに眺め、めくっているうちに、ああ、こんなことを書いてみようと思ってきました。

19年間の在任中、同窓会だけで行った同窓会館建設や会員名簿及び会報の発行、学校やPTAと同窓会と三者共に行った新校舎建設、移転、70周年、80周年等の記念事業は、会員名簿、会報(15、16、17号)でお知らせ致しましたが、それ等の事業の資金の調達に当っては何と云っても同窓会に仰ぐ事が多大了ので皆様には本当にご協力戴きました。その度に学校、PTA、他校同窓会の方々から、さすがは染谷丘高校同窓会だと云われて来ました。伝統の奥ゆかしい団結の賜物と感謝の外ございません。

さて、今回はそうした大事業でなく、会長をされていてこんなこともあつ

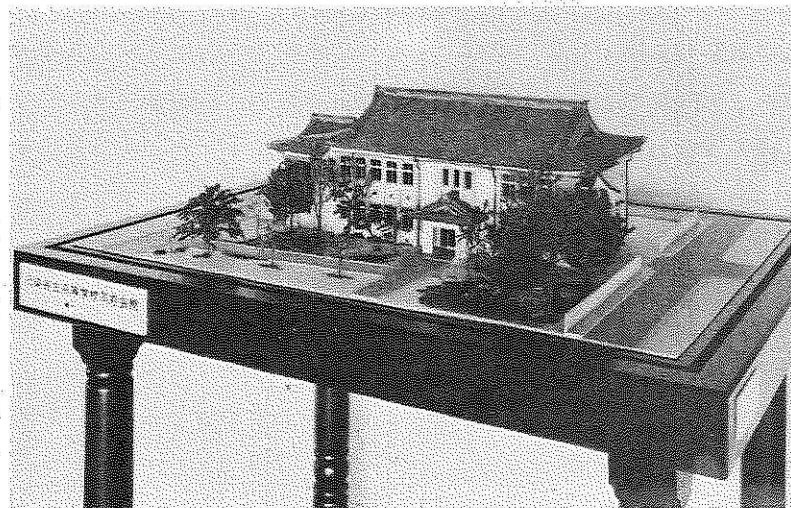
たという事を記録の中から三つ四つ書かせていただきます。

先づ東京の同窓会を初め各支部の総会に出席が出来た事、その支部の皆様と親しく楽しくお話しが出来、本部とのつながりも持ててうれしく思いました。東京同窓会へも副会長の時からご招待戴きお世話になりました。皆様にお目にかかれる事、1年に一度お江戸へ行かれますのがうれしく、会長さんを初め役員皆様のご苦勞をお察しし、その盛会なのに感服しつつ嬉しく楽しく過ごさせて戴きました。今こうしておりますと佐藤会長さんから続いての会長さん方のお姿とその時の総会の様子が浮んで参ります。ありがとうございました。

次に戦時中、学有林でありました殿城方面の山、皆様の中に植林をされた方もおられるでしょう。又あの山から薪を背負った方もございましょう。あれは今学有林でなく同窓会が市から管理を任されております。これを55年10月に学校長、事務長、同窓会、PTA 三役、市役所職員と視察しました。何年も放置してあり、山は急斜面で下草刈もしてないのでつる草が唐松の木にからみつき大変でした。途中雨が降り出し傘に手拭かぶりの姿の写真も思い出です。市役所の方に雑草と雑木の切り取りをお願いしました。

次は旧同窓会館撤去のこと。一昨年（58年）中央公民館となっていた旧同窓会館敷地に市民要望の文化会館を設立することが市議会で決定となりました時、市役所へ行き市長さんと会いお話をききました。市では専門家の話に依り耐久年数はあと2、3年で、すでに柱1メートルまで白アリに侵されている、また同窓生の資金で建設した当時は立派なものであったけれど、さして文化的の価値ある建造物でない、とのことで60年に撤去と決定したとのこと。思い出の会館で惜しいと思いました。市長さんは欲しい方には誰にでもさしあげる、好きな所へ持って行って建

てることはかまわない、と云っておられましたが同窓会としては会館はあるし、敷地も莫大な資金もなく、又後の管理の点を考えても残すことは不可能で、市長さんのお話を了解致しました。有志で市民運動をして署名をとり陳情して下さった方もありましたが、成果がなかった様でした。その後記念になる様なものと思い、市長さんに模型を作って欲しいとお願いしましたら、その位の事ならと心よくお受け下さり、市の予算で百分の一の建物と敷地内の主な樹木の模型をガラスのケースに納め、台付で戴きました。その上又取りこわす時鬼瓦を戴き度い事をお願いしました所それも心よく受諾下さいまして、本年2月13日撤去の日大屋根両端鬼瓦2箇玄関上の1箇を学校に運んで戴きましたので同窓会館庭に2箇、ブロンズ像横に1箇を据えつけてあります。今は旧会館跡は文化センターの自動車置場になっていますが、同窓生の思い出にもと大きな樹木は3箇所に堺（囲い）を作って残して下さいました。市当局、永野市長さんのご理解とご厚意には頭が下がる思い只々感謝の外ございません。又これには前校長、現校長両先生にもお世話になりました。



最近では男子生徒も増え58年に野球部が出来、59年には野球部後援会も発足、生徒の通学区域の同窓生に呼びかけ大ぜいの会員が出来、資金も多く集まりました。58年の県大会ではベストエイトまで、59年には準々決勝まで残り、私も応援に行きました。まだ応援団もなく型なしで只皆して精一ぱい心から大声で応援をしました。

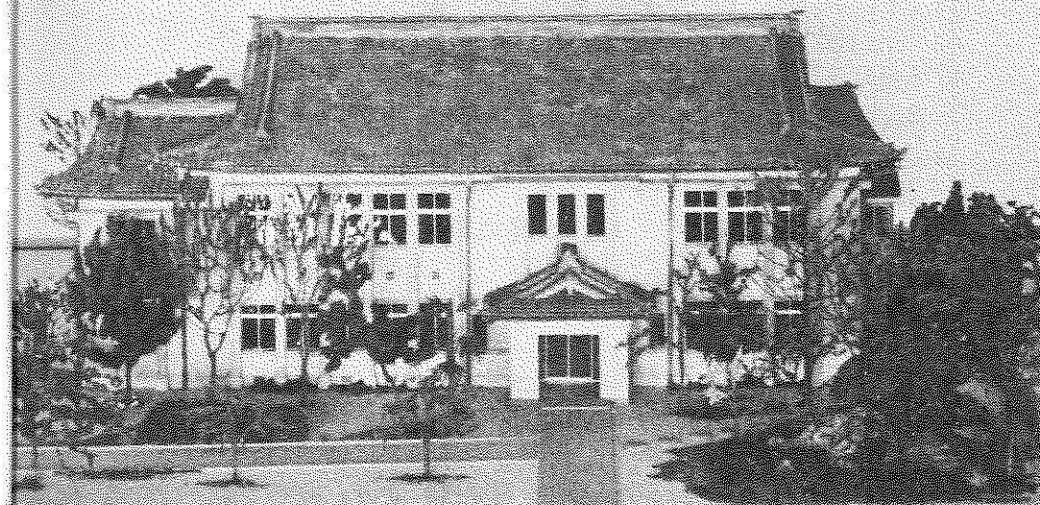
もう一つ70周年式典後、同窓会の総会で物故者慰霊追悼会のあの雰囲気、水を打ったような静かな会場で、又同窓会のためにご指導ご協力下さった大先輩の花岡みよし様の告別式、それから事務局の長をされ校務の傍ら同窓会のために真剣にお力をお注いでくださった関川先生の御葬儀の場で、弔辞を捧げた事は悲しい淋しい思い出で、今でも考えると涙が出ます。

会長であった故にこんな事もあったと座談会で話すような事で大変失礼でございます。

最後に一こと申し上げ度い事は、会として一つの事をするには本部は本部なりに支部は支部なりに日数（時間も含めて）と労力がかかるのです。会長さん初め役員の方々の並々ならぬ御苦勞のある事を会員一人一人がお察しし協力しなければならないと思います。同窓会の仕事はボランティア活動のようなものです。役員は誰でも、母校を、また会を愛すればこそ真剣に仕事に取り組まれるのでございます。我が同窓会は本部も支部もゆかしく堅く結ばれ、先輩を敬い後輩を慈しみ指導するといった伝統的な大団体である事を確信し、皆様と共によろこび度いと思えます。

ここに東京同窓会50年のお祝いと会のますますのご繁栄を祈念いたしますと共に皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

## 上田高女・上田染谷丘高校 東京同窓会のあゆみ



写真：旧同窓会館模型（太陽堂カメラ店 小林真夫氏撮影）

上田高女・染谷丘高校東京同窓会の歩み

回数	総会年月日	総会会場	会費	年度会費
1	9. 3. 6 (地久節)	日本橋白木屋	80銭 写真代20銭	
2	10. 3. 6 (地久節)	銀座明治製菓		
3	12. 3. 6 (地久節)	日本橋白木屋		
4	13. 3. 6 (地久節)	新宿聚楽		
昭和14年より28年まで戦争のため休会				
5	29. 5. 9 (母の日)	中野日本閣		
6	30. 5. 8 (母の日)	初台霞山荘		
7	31. 5. 13 (母の日)	芙蓉会館 (新宿歌舞伎町)	450円	
8	32. 5. 12 (母の日)	豊島園ホテル	300円	100円
9	33. 5. 11 (母の日)	白雲閣 (池袋西口)	500円	100円
10	34. 5. 10 (母の日)	旅館神宮橋	500円	120円
11	35. 5. 8 (母の日)	都市センターホール (千代田区平河町)	500円	150円
12	36. 5. 7	旅館神宮橋	300円	150円

会長	備考
西沢卯女(6) 芦田愛子(17)	◦ 創始者は西沢卯女様(6回)と芦田愛子様(17回)他幹事11名である。
西沢卯女 芦田愛子	◦ 第2回 昭和10年 総会時の記念写真が母校同窓会誌(昭和10年12月発行第14号)の巻頭になっている。
西沢卯女 芦田愛子	◦ 第3回 昭和12年5月 創始者西沢卯女様、長野市へ転居された。
芦田愛子	◦ 昭和14年より昭和28年まで戦争のため15年間休会。
芦田愛子	◦ 第5回 昭和29年 芦田愛子様のお骨折りためめでたく出席者82名で再発会することができた。
芦田愛子	◦ 第7回 昭和31年 名簿第1号ができて規約書(会則)が4条にわたってできた。
芦田愛子	◦ 第7回 昭和29年より31年まで芦田愛子様を中心として、輪番で役員をしていたが昭和31年の総会で会長の立候補者をたてて選出し、馬場栄子様(11回)が会長になった。
馬場栄子(11)	◦ 第8回 昭和32年 年度会費を集めた(100円)
馬場栄子	◦ 第12回 昭和36年 名簿第2号ができた。
歌橋はな(9)	◦ 母校会則に準じて東京支部の会則ができた。
歌橋はな	
津田きく(9)	

回数	総会年月日	総会会場	会費	年度会費
13	37. 4. 22	旅館 神宮橋	350円	150円
14	38. 4. 21	旅館 神宮橋	400円	150円
15	39. 4. 21	芝増上寺	450円	150円
16	40. 4. 29	ほととぎす		150円
17	41. 4. 23	酒蔵信州新宿店	550円	150円
18	42. 4. 23	芝増上寺2号館	550円	200円
19	43. 5. 12	福寿会館 (中野駅前)	800円	200円
20	44. 10. 12	東條会館		
21	45. 11. 23	東條会館		
22	46. 11. 7	東條会館		
23	47. 11. 12	東條会館		
24	48. 10. 20	半蔵門会館	2000円	300円
25	49. 11. 3	半蔵門会館	2500円	500円

会長	備考
津田 きく	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 第17回 昭和41年 本同窓会内に結婚相談所をおいた。</li> <li>◦ 第19回 昭和43年まで記念撮影をしていたが、この年で終わった。</li> <li>◦ 第20回 昭和44年 上田高校第8回の総会に本同窓会役員3名招待された。そして姉妹校としての縁を結んだ。</li> <li>◦ 第21回 昭和45年 会員名簿 第3号発行</li> <li>◦ 昭和31年より昭和45年まで母校の校舎新築の募金活動に応じ、佐藤会長をはじめ会員が多額の寄付をした。</li> <li>◦ 昭和45年11月5日、母校が山口の新校舎に移転した。</li> <li>◦ 第22回 昭和46年 上田高女染谷丘高校東京同窓会支部を上田高女染谷丘高校東京同窓会と改める。</li> <li>◦ 同年、島田療育園へ役員が日用品等を持って慰問にいった。</li> </ul>
佐藤 松苑 <sup>(21)</sup>	
佐藤 松苑	
佐藤 松苑	
佐藤 松苑	
佐藤 松苑	
佐藤 松苑	
佐藤 松苑	
佐藤 松苑	
佐藤 松苑	
佐藤 松苑	
佐藤 松苑	
笠川 順 <sup>(26)</sup>	
古賀 和嘉 <sup>(27)</sup>	
古賀 和嘉	

回数	総会年月日	総会会場	会費	年度会費
26	50. 11. 3	ホテルニュー目黒	2500円	500円
27	51. 10. 24	ホテルニュー目黒	3000円	500円
28	52. 10. 30	サンケイ会館	3000円	1000円
29	53. 9. 17	千駄谷区民会館	2500円	1000円
30	54. 9. 29	千駄谷区民会館	2500円	1000円
31	55. 9. 7	日本青年館	3000円	1000円
32	56. 8. 30	日本青年館	3000円	1000円
33	57. 9. 18	日本青年館	4000円	1000円
34	58. 9. 23	サンケイ会館	4000円	1000円
35	59. 9. 16	東京農林年金会館	5000円	1000円
36	60. 9. 23	東京農林年金会館	5500円	1000円
37	61. 10. 5	〃		(1200円)

会長	備考
古賀和嘉	○第28回 昭和52年 年度会費を郵便振替にして便利になった。(振替9-45444)
古賀和嘉	○第30回 昭和54年 東信地区同窓連が東京と信州合同で小諸にて総会が行われた。
古賀和嘉	○同年、染谷丘高校東京同窓会の名入りの布巾を記念品として会員全員に配布した。
古賀和嘉	○第32回 昭和56年 母校80周年記念行事の募金に会員が多額の寄付をした。
横田澄子(37)	○第32回 郷土史研究家 川上元氏の講演を聞いた。演題「ふる里の歴史あれこれ」
横田澄子	○第33回 総合美容家 山崎伊久江氏の講演を聞いた。演題「いつも、いつでも心から美しく」
岡本みち子(40)	○第34回 火山、地震学者 諏訪彰氏の講演を聞いた。演題「我が家の地震対策」
岡本みち子	○第34回 昭和9年創立当時から昭和43年までの総会時の記念写真をスライドで写した。
塚田玲子(41)	○第35回 昭和59年3月の卒業生11人を招待した。
塚田玲子?	○第35回 創立50年(実質35年)のため記念品(信州ジャム)を出席者に配布した。
小林ふき子(41)	○第36回 男性会員初参加。



## 在京同窓會員の集ひ

6回卒業 西 沢 卯 女

昨年（昭和9年）十何年振りかで同窓會の會報を手にして見て、知らない間に母校にも同窓生にも様々な變化のあつた事を知り、今更の様に自分を振り返って昔懐しさの想に耐えられないものがありました。名簿を見れば在京同窓生は臆て500人にも近い多數であるにも係らず、私も在京20年に及ぼうとして居るのに未だ一度も全般に亘つた同窓會の開かれる事を聞かないことを思ひ合はせ、急に芦田様と御相談して名簿を頼りに洩れなく御通知して始めたのが9年3月6日地久節の佳晨、場所は日本橋白木屋階上午前10時から午後4時迄會費80銭、不安と又期待とに其日を迎えた會は然し満足と感激其のもので終始してしまひました。

舊師では狩野洋信先生、宮原小次郎先生、太田乙子先生、岩野いせ先生、島津みち先生、會員には第1回以後各回共數名づつの出席を見、古くは實に30年ぶりからの久瀾を慰すといふ情景でした。此望外の好結果に力を得ましたと同時に、出席された方から當日の會の様を聞き缺席を残念がられた多くの方々の御希望も切である事を知り、本年も開く事にし新しく幹事を十数人にお願ひし幹事會を開いて萬事を取り運ぶ事に致しました。

昭和10年3月6日 午前10時より午後4時迄會費1圓東京銀座明治製菓賣店階上に開會出席者160餘第1回2回卒業の方等は在京者全部出席されるなど以下夫れに準じて前年にもました盛會で相當廣い會場も出入に困難する有様でした。

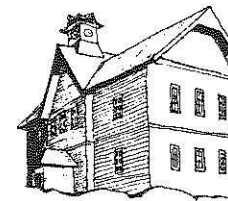
談笑と喜悅と今日ばかりは老いも若きも——先生方の中には既に白髪

を交えられし方もあれば——等しく學窓夢多かりし昔に歸って眞に和氣霽々裡に楽しい1日を過しました。尚宮入様の御斡旋にて記念撮影をし之を實費20銭で御頒ちする事が出來又會場明治製菓店でも會の名を入れた記念のマッチを特に作り一同に寄贈されたのも喜びでした。

會としての理想から言へば何か有益な講話も有りたいたのですが舊情を温めるに何よりも急な現状を考へ修養とか特に餘興とかは措き暫此儘で續けて行き度いと思つて居ます。

11年度はもっと廣い會場を今から心掛けて居る次第です。今後共に會員皆々様の熱心な御賛同を願つて居ります。

（昭和10年刊、母校同窓會誌14号より転載）



## 消 息

17回卒 芦 田 愛 子

昭和8年春、第6回卒の西沢卯女様と親交があり、2人で協力して上田高女卒の東京在住者の同窓会を設立、開催を企画しその実現を計り種々の資料集めに奔走した。

準備整い昭和9年3月6日「皇后陛下御生誕日」日本橋「白木屋」にて発会式を挙げる。出席者百余名、久澗を叙して一同時を忘れての楽しい集いであった。

昭和10年3月6日、2回目を銀座「明治製菓」にて行ない出席者は前回より多数であった。

昭和11年3月6日、3回目は再び「白木屋」に於いて開催、出席者は百名を越え盛会であった。

昭和12年春、西沢卯女様御主人の転任の為長野市へ移られる事になり、5月2日上野常盤館における有志30余名の送別会を最後に帰郷なされた。

その後、日本はあの忌はしい戦争に突入した為同窓会等は夢と果て、昭和13年3月6日新宿の「聚楽」に於ける4回目の催しを最後に空しい年月は流れた。

平和が戻り人々の心にも安らぎと希望が甦り始めた頃、同窓会復活を望む声を持ち上り、まだ何も彼も不足勝ちの時代乍ら、昭和29年5月9日「中野日本閣」に於て戦後初めての会を開催する事が出来た。出席者百余名、15、6年ぶりの久澗は誠に嬉しい限りであった。

翌30年5月は初台の「霞山荘」にて開催、出席者は一寸減り70余名で

あった。

昭和31年5月13日、新宿「芙蓉会館」に於て開催した。この年は私の発想により、東京同窓会々員の名簿を作製、これを会当日に頒布のむね書き添えた為か出席者もことのほか多く盛会であった。まだ紙のいも自由に入手出来ぬような戦後の時代であったが、朝日新聞社の御厚意により更紙18枚（2つ折）綴りに印刷されたもの100余冊、これは全部無償であったものを会員の方々には1部何円かで頒布し、ここに初めて会の基金とも云うべきものが出来たのであった。約500名を収録し得たが、この調査にも会員の方々の御助力は大変なものであった。これが東京同窓会の名簿第1号であり、爾来物資の豊富となるに従い佐藤学さん（21回卒）の御尽力によって2号、3号と次第に立派なものが発行されるに至ったのである。

（中 略）

星移り人替りて東京同窓会も設立以来はや40有余年が経ちました。考えてみれば、創立当時信州の里で可愛い赤ちゃんが、小学生位であられた方々が、今この東京でこの会の為に活躍して下さっているのです。そして又、この永い年月の間には病を得てお亡くなりになった同窓生の方も数々いらっしゃいます。年々開会のみぎりその方達の御氏名をお知らせ申上げる悲しさは断腸の思いでございました。

会のお役も様々ですが御引受け下さった方々には、皆さん誠心誠意尽して下さるのではほんとうに有難いことと感謝して居ります。

何卒、会長様初め役員幹事の方々いつまでもこの会を愛し、そしてこの会の灯火が消えませぬようくれぐれもよろしく御願い申し上げます。

（昭和51年11月役員一同にあてた手紙文より一部省略して転載）

## 紺 綬 褒 章

昭和45年落成した上田染谷丘高等学校新校舎建築に際し、東京同窓会も資金調達に協力いたしました。特に、当時の東京同窓会会長佐藤松苑女史（21回卒）は、その陣頭指揮にあたられ、御自身の制作にかかる日本画の個展を開き、その売上金100万円を拠出されました。後、この功績がたたえられ、女史は、紺綬褒章（写真）を授与せられております。



次に、昭和40年秋に開催された佐藤松苑女史個展の趣意書を、御紹介いたします。

佐藤杏葉 日本画個人展覧会

と き 10月22…25日

10時…16時

と ころ 八十二銀行階上ホール

上田市海野町（市役所前）

上田染谷丘高等学校同窓会後援

### 趣 旨

上田染谷丘高等学校（旧上田高等女学校）この私たちの母校は校舎老朽の為十年前から校舎新築基金の募金に着手されて居りました。現在は資材値上りで誠に困難な折柄、来年いよいよ新築着工の運びとなりました。私この度その資金の一部にと、日本画30余点の揮毫で、この売上純益金を醸出致し度いと存じます。

長野県は、他県に比べ県下に県立高等学校が非常に多く、各学校共老朽化し県当局におかれましても、その資金の調達は容易でないものと察せられます。私たち同窓生一同は1,000万円を目標に建築資金の醸出を決定いたしました。卒業生の一人として、母校のこの大きな事業に対し協力致し度く少しでも母校の御役に立ちたいと存じ、佐藤杏葉日本画個人展覧会を計画致しました次第です。

21回卒 佐藤杏葉（現在松苑）

## 東京支部

27回卒 古賀和嘉

私ども東京同窓会は、昭和9年3月6日、東京日本橋白木屋で産ぶ声をあげました。在京同窓生が、故郷を想い、友を恋うて集ったのが始まりでございます。爾来40有余年、諸先輩の御努力により、今日の繁栄が築きあげられました。独自の会則をもち、会の台所を会費でまかなうことができますのも、盛会なればこそでございます。

会の運営を円滑にするため、東京同窓会には、次の役員が置かれています。名誉会長、会長、副会長、会計、会計監事、顧問、それに幹事です。幹事は、各卒業年次から選出されますが、副会長、会計、会計監事、顧問は会長により、委嘱されます。つまり、二通りの方法で、会長を除いた役員が定められるわけです。なお会長は役員総会で、決められます。

思えば、一ばん感じ易い少女時代を、山紫水明の地、上田で過せた私どもは、しあわせでございました。街がスモッグでおおわれるとき、信州の澄んだ空を想います。多摩川のほとりにたたずんで、夏の夜風にふかれるとき、千曲川の渡しが目に浮びます。特急で日帰りのできるこの頃でも、私どもの心には、往時の上田が生きているのです。

年に一度の東京同窓会も、回を重ねるごとに充実して参りました。そして今、日常生活の中で、会の力を積極的に活用していかねばならない時期を迎えております。これまでの先輩の御努力に、頭をたれ、若い同窓生に未来を託して、東京同窓会の現在は「会の発展の為に、総会の外にももっと何かしたい。しかし、一体何ができるのだろうか。」という問題をかかえて、無い知恵を出し合い思案している最中なのでございます。  
(昭和51年の同窓会報 第15号より転載)

## ただ「ありがとう」の心こめて

29回卒 竹内かつ

私が卒業した昭和8年頃の信州は、大不況で給料も定期日に支給されず、食べるにも困難でした。そんな中で、いやそんな中であればこそ、私は、本気で「いかにして我が人生を他のために生かし得るか」と考えていたようです。これは当時の価値観だったかも知れませんが、それよりも父親の感化がより強かったのだと思います。でも私は、我が力の繊弱さが情けなく、自己嫌悪にとらわれて生きる希望さえも失いがちでした。哲学書を好んで読みました。

その後、私は遂に意を決して渡満しました。嘆願書を満洲国日本大使館宛に出したのです。幸に採用されて日本人小学校鞍山曙小学校に着任しました。

ところがあの世界大戦の敗戦です。私は無一物の避難民となり故国日本に帰還させられたのです。我が身のせみのぬけがらの如き存在に、彷彿として生きる術をなくしていたのですが、恩師の方々から救われて二年後東京で復職し教師になりました。昭和38年東京都で初めて女子に管理職試験を受ける機会が与えられたので苦心の末、やっとその席を得ることが出来ました。

昭和49年60才で停年退職、その翌年の昭和50年国際婦人年世界会議がメキシコで開催されたのです。私は、世界の女性を知る絶好の機会であると思いこれは何をおいても参加しようと考えて、行って来ました。

——集った世界の婦人は、生き生きとした目の輝きで力強く行動し堂々と発言しているのです。心と頭と体との一体、血と肉と力の統合は、

人間学と社会学の本質的究明を求め、正しさを願う。そこには自分の個人はなく世界中の婦人への願いがあり、後に続く世界の人々への祈りが満ち満ちていました。これは私が求めていた「人の生き方」そのままの姿だったのです。——

昭和50年11月1日、私は三井愛之輔校長、恩師西沢たけ代先生に招聘され染谷丘高校生に相まみえる栄誉を与えられました。その年母校も男女共学制が実施され、1年生に男子の姿がありました。全校生1,089名の男女生徒は終始私の話しに傾聴してくれました。私は感動しました。丁度父33回忌・母43回忌の法要の前日でしたので、私は感激と感謝の報告をいたしました。

「竹内文庫」はその時の私の誓の行為なのです。私ができる母校への感謝のささやかな行為なのです。——私は栄誉ある染谷丘高校の卒業生です。80年の歴史の中の小さな一点の人間ですが、積み上げられた先人から受けた恩恵は計り知れない奥深さがあり、それに包まれてこそ今日の私です。——

ただ、ただ「ありがとうございました」のささやかな行為です。

(最後に、在校生のみなさまへ)

私の心が、染谷丘高校の生徒のみなさんの心に生かしていただけるのなら私は、私の小さな一点が存在する限り、行為を続けさせていただきます。

(母校創立80周年記念誌より転載)



## 忘れ得ぬふるさと・上田

37回卒 横田 澄子

上田は信濃国分寺の設立をみるほど、古くからひらけ、真田昌幸・幸村父子の城下町として知られております。そして別所温泉は歴史の古い温泉で、塩田を中心として「信州の鎌倉」といわれるほど、古寺や史跡が多く残されております。安楽寺の国宝八角三重塔は唐様式の特徴をもつ室町時代のものとして有名であります。

しかし私にとって忘れ得ないものは、幼い頃、父や母につれていってもらった上田の年中行事の思い出であります。

毎年正月8日は、信濃国分寺の八日堂のお縁日で賑いました。父につれられてお参りを済ませた後、沿道に並んだお店から福だるまや蘇民将来、麻の緒の束などを買いお多福飴を買ってもらうのを楽しみにしていたものでした。

道々、この八日堂は今から1200年以上も昔、天正13年に聖武天皇の勅願によって全国に建てられた国分寺の一つだとか、いろいろ由来を話してくれました。肩をふれあわんばかりの雑踏をさけて、雪の積った田んぼの中の道を近道して行った時など一層いろんなことを話してもらったものでした。そして茶店で何か温かいものを食べさせてもらいホッと一息入れたものですが、カラスのでんがく(田楽)だけは遂ぞ食べるといわなかったように記憶しています。看板が何となくこわかったのでしょうか。

1月14日は、生島足島神社のお筒がゆの神事。1月15日は、別所温泉の北向観音さまの智恵のダンゴまき、厄除けの観音さまとして霊験あら

たかといわれ、いつ詣っても参拝する善男善女をみかけます。境内にそびえる大木は「愛染かつら」とよばれ、縁結びの木として親しまれております。

3月25日は別所温泉の「岳ののぼり」とよばれるお祭り、最近殊に有名になったようで、私はテレビで一度見ただけですが、地元では年々盛大に行われるようになったそうです。

7月15日は祇園祭り。暑い盛りではありますが、女の子は長い袂のきものを着せてもらい、千早とよばれた水干をつけ、お練りの綱につかまって山車の前を街中歩いた幼い日のことが、懐しく思い出されます。

10月14日はざくろ祭り。おバンジンさまのお祭りには、姉弟揃って母に連れられてお参りしました。鬼子母神さまにわが家の庭で取れた大きな「ざくろ」をお供えし、子ども達が無事元気に成長するようにお願いし、代わりに、ご供として小さな「ざくろ」をいただいて帰ったものでした。

11月20日は「えびす講」この日も毎年必ず母に連れられて買い物に出かけたものです。衣類やら何やらお正月に必要なものはすべて、この日に買い整えたものです。初詣には全部新しい肌着に着替えさせられ、雪で凍った道をカランコロン、カランコロンと下駄の音を響かせて氏神さまへ参ったものです。

12月31日は北向観音の2年参りでこの日にお詣りするとご利益があるといわれ、大変な賑いです。夜のためか、子どもは連れていってもらえなかったのか、この日のことはあまり覚えておりません。

(中 略)

上田市は今、東信濃路随一の商工都市となりました由、ご同慶の至りです。「寅さん」の山田洋次監督も思い出の場所、好きな場所で「ふる

さととは変ってほしくない」といっておられました。美しい自然は変わる事なく、なおかつ発展してほしいと思うのは、わがままなお願いでしょうか。

私のふるさととは

青い空

緑の山々

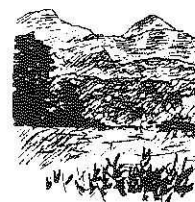
空気が澄んでいて

お花の色が美しいところ

言葉は少し荒っぽいが

人情味の厚いところ

(昭和53年6月号「信州の東京」より、一部省略して転載)



# 会 則

## 第1条 (名 称)

本会は上田高女染谷丘高校東京同窓会と称す。

## 第2条 (会 員)

本会は上田高等女学校及び上田染谷丘高等学校卒業生であり京浜其の他之に準ずる地域に居住する者を以て組織する。中途退学者も会員となることができる。

## 第3条 (目 的)

本会は会員相互の親睦向上を図り、併せて母校の発展に協力することを目的とする。

## 第4条 (経 費)

本会の経費は会費でこれを支弁する。

本会は会員及びその他より寄附金を受領することができる。

## 第5条 (役 員)

本会に下記の役員をおく。

1. 会 長 1 名 (都内在住の者)
2. 副会長 若干名
3. 会 計 若干名
4. 庶 務 若干名
5. 監 事 若干名
6. 幹 事 各卒業年次ごとに1名

## 第6条 (役員任期)

役員任期は2ケ年とする。但し重任は妨げない。

任期中已むを得ぬ事情のある場合は部分的に更迭を認める。

幹事の重任は2期までとする。

## 第7条 (役員任務)

会長は会務を総理する。

副会長は会長を補佐し会長に事故ある時はその代理をする。

監事は、会計、事務、その他を監査し、その結果を総会に於て報告する。

## 第8条 (役員選出)

会長は役員総会に於て選出する。

副会長及び会計、庶務、監事は会長これを委嘱する。

幹事は卒業年次グループより選出する。

## 第9条 (顧 問)

本会に顧問、相談役及び参事を置くことができる。本会を総理するに当り必要に応じて会長が委嘱する。

## 第10条 (総会並びに役員総会)

総会は年1回会長之を開く。

会長は必要に応じて総会を開くことができる。

役員総会は役員全部で構成し会長が必要に応じて之を開く。役員総会は総会に代わる議決機関で諸議を決議する。

## 第11条 (会計年度)

本会の会計年度は1ケ年とし、4月1日より翌年3月31日までとする。

## 第12条 (会員の報告義務)

会員中転居又は身分の変動の生じた場合及び電話番号の変更、新住居表示等、会長宛に通知するものとする。

## 第13条 (細 則)

その他会運営に必要な事項は、細則で之を定める。細則は役員総会が作成する。

## 細 則

### 第1条 (会員資格の得喪)

本会に入会を希望する者は、その旨を会に申し出で、年会費を納めることにより会員たる資格を取得する。

会員が引続き4年以上会費の納入を怠ったとき、その会員は会員資格を喪失する。

本会会員の行為が、次のいずれかに該当するとき、役員総会はその会員の資格喪失を決定することが出来る。

1. 会則第3条に規定する会の目的に違反するとき
2. 会の名誉又は品位を著しく傷つけたとき
3. その他

本会会員は、会に申し出で、いつでも会を脱退することが出来る。

### 第2条 (会員の役員総会への出席等)

本会会員はいつでも役員総会に出席して会運営に関する意見を述べることが出来る。

会員が役員総会へ出席することを希望する場合は現役員3名以上の推せんを得て会長にその旨申し出で会長の承認を得ることを要する。またその会員はあらかじめ述べようとする意見の概要を会長に通知する義務を負うものとする。

役員総会へ出席した会員は議決には加わらない。

### 第3条 (会 費)

会員は年会費を負担する。その額は物価にスライドして決められる。

昭和52年度より年会費年額1,000円とする。

---

1985年9月23日発行

発行責任者 上田高女・染谷丘高校東京同窓会

会長 小林 ぶき子

〒177 東京都練馬区大泉学園町2-27-11

TEL 03-921-7340

印刷所 大東印刷工業株式会社

TEL 03-625-7481

---